

## 平成 21 年度 抛出委託単価について

財団法人日本容器包装リサイクル協会

### 「抛出委託単価」算出の計算式

$$\text{抛出委託単価} = \frac{(\text{想定額} - \text{「現に要した費用」の見込金額}) \times 1/2}{\text{特定事業者からの再商品化委託申込量の総量}} \times 1.05$$

#### <平成 21 年度 抛出委託単価の算出根拠>

平成21年度分		想定額 (円)	「現に要した費用」 の見込金額 (円)	( - ) × 1/2	再商品化 委託申込 量の総量 (トン)	÷ 平成 21 年度 抛出委託単価 (円/トン)
				合理化抛出金 の見込金額 注 1) (円)		
ガラスびん	無色	293,151,560	358,826,694	0	154,461	0
	茶色	361,726,537	410,398,785	0	133,422	0
	その他色	534,654,172	647,337,650	0	107,273	0
PETボトル		964,422,137	681,434,684	141,493,727	258,867	600
紙製容器包装		124,025,540	71,600,000	26,212,770	33,700	900
プラスチック製 容器包装		53,453,735,865	35,639,168,000	8,907,284,000	847,200	11,100

注 1) 計算の結果、( - ) × 1/2 がマイナスあるいは 0 (ゼロ) となる場合は、合理化抛出金は 0 (ゼロ) となります。

注 2) 合理化抛出金の見込金額、再商品化委託申込量の総量、抛出委託単価は端数調整しています。

注 3) 市町村への再商品化合理化抛出金は、想定額よりも「現に要した費用」が下回ってはじめて抛出されますが、ガラスびんの場合は「現に要した費用」の方が上回る見込みのため、平成21年度の合理化抛出金は発生しない見込みです。

#### 「想定額」の求め方(「想定量」×「想定単価」)

素材別 / 再商品化手法別		想定量 (トン)	想定単価 (円/トン)	×
				想定額 (円)
ガラスびん	無色	100,360.000	2,921	<b>293,151,560</b>
	茶色	99,130.320	3,649	<b>361,726,537</b>
	その他色	103,135.450	5,184	<b>534,654,172</b>
PETボトル		203,507.520	4,739	<b>964,422,137</b>
紙製容器包装		26,718.126	4,642	<b>124,025,540</b>
プラスチック 製容器包装	材料リサイクル(トレイ)	947.726	43,075	<b>53,453,735,865</b>
	材料リサイクル (トレイ以外)	368,820.200	94,658	
	油化	13,550.000	84,904	
	高炉還元剤化	36,494.150	68,089	
	コークス炉原料化	159,575.100	62,499	
	合成ガス化	74,327.700	65,824	

注 1) 想定量は特定事業者負担分のみ。 注 2) 想定単価は 3 年間固定で、消費税を含みません。

(参考)平成20年度抛出委託単価について

<平成20年度抛出委託単価の算出根拠>

平成20年度分		想定額 (円)	「現に要した費用」 の見込額 (円)	( - ) × 1/2	再商品化 委託申込 量の総量 (トン)	÷ 平成20年度抛 出委託単価 (円/トン)
				合理化抛出金 の見込額 注1) (円)		
ガラスびん	無色	295,830,613	337,456,512	0	153,800	0
	茶色	354,631,714	395,015,166	0	112,300	0
	その他色	552,982,982	611,616,185	0	108,400	0
PETボトル		748,730,495	75,000,000	336,865,247	281,800	1,300
紙製容器包装		124,681,687	11,600,000	56,540,843	31,700	1,900
プラスチック製 容器包装		53,324,933,384	36,235,038,000	8,544,948,000	849,200	10,600

注1) 計算の結果、( - ) × 1/2がマイナスあるいは0(ゼロ)となる場合は、合理化抛出金は0(ゼロ)となります。

注2) 合理化抛出金の見込額、再商品化委託申込量の総量、抛出委託単価は端数調整しています。

注3) 市町村への再商品化合理化抛出金は、想定額よりも「現に要した費用」が下回ってはじめて抛出されますが、ガラスびんの場合は「現に要した費用」の方が上回る見込みのため、平成20年度の合理化抛出金は発生しない見込みです。

「想定額」の求め方(「想定量」×「想定単価」)

素材別 / 再商品化手法別		想定量 (トン)	想定単価 (円/トン)	×
				想定額 (円)
ガラスびん	無色	101,277.170	2,921	295,830,613
	茶色	97,186.000	3,649	354,631,714
	その他色	106,671.100	5,184	552,982,982
PETボトル		157,993.352	4,739	748,730,495
紙製容器包装		26,859.476	4,642	124,681,687
プラスチック 製容器包装	材料リサイクル(トレイ)	976.595	43,075	53,324,933,384
	材料リサイクル (トレイ以外)	384,107.760	94,658	
	油化	5,000.000	84,904	
	高炉還元剤化	24,264.480	68,089	
	コークス炉原料化	168,552.160	62,499	
	合成ガス化	65,523.040	65,824	

注1) 想定量は特定事業者負担分のみ。 注2) 想定単価は3年間固定で、消費税を含みません。